

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
0 建築物の環境品質								4.0
Q1 室内環境			0.38					3.6
1 音環境		3.1	0.15	-	-			3.1
1.1 騒音		3.0	0.40	-	-			
1.1.1 暗騒音レベル		3.0	1.00	3.0	-			
1.1.2 設備騒音対策		-	-	-	-			
1.2 遮音		3.4	0.40	-	-			
1.2.1 開口部遮音性能		3.0	0.60	3.0	-			
1.2.2 界壁遮音性能	会議室、機械室界壁: D_r42	4.0	0.40	3.0	-			
1.2.3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	3.0	-			
1.2.4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	3.0	-			
1.3 吸音		3.0	0.20	3.0	-			
2 温熱環境		3.0	0.35	-	-			3.0
2.1 室温制御		3.0	0.50	-	-			
2.1.1 室温設定		3.0	0.38	3.0	-			
2.1.2 負荷変動・追従制御性		-	-	-	-			
2.1.3 外皮性能		3.0	0.25	3.0	-			
2.1.4 ゾーン別制御性		3.0	0.38	3.0	-			
2.1.5 温度・湿度制御		-	-	-	-			
2.1.6 個別制御		-	-	-	-			
2.1.7 時間外空調に対する配慮		-	-	-	-			
2.1.8 監視システム		-	-	-	-			
2.2 湿度制御		3.0	0.20	3.0	-			
2.3 空調方式		3.0	0.30	3.0	-			
3 光・視環境		3.8	0.25	-	-			3.8
3.1 昼光利用		4.0	0.30	-	-			
3.1.1 昼光率	昼光率2.2%	4.0	0.60	3.0	-			
3.1.2 方位別開口		-	-	5.0	-			
3.1.3 昼光利用設備	明るさセンサー採用	4.0	0.40	3.0	-			
3.2 グレア対策		3.0	0.30	-	-			
3.2.1 照明器具のグレア		-	-	-	-			
3.2.2 昼光制御		3.0	1.00	3.0	-			
3.3 照度		3.0	0.15	-	-			
3.3.1 照度		3.0	1.00	3.0	-			
3.3.2 照度均斉度		-	-	-	-			
3.4 照明制御	1作業単位で制御可能、かつ、端末・リモコンで調整可能	5.0	0.25	3.0	-			
4 空気質環境		4.6	0.25	-	-			4.6
4.1 発生源対策		5.0	0.50	-	-			
4.1.1 化学汚染物質	全面的にF であり、VOCの放射量の少ない建材を使用	5.0	1.00	3.0	-			
4.1.2 アスベスト対策		-	-	-	-			
4.1.3 ダニ・カビ等		-	-	-	-			
4.1.4 レジオネラ対策		-	-	-	-			
4.2 換気		4.0	0.30	-	-			
4.2.1 換気量		3.0	0.33	3.0	-			
4.2.2 自然換気性能	開口面積は1/7	5.0	0.33	3.0	-			
4.2.3 取り入れ外気への配慮	敷地周囲には汚染源はなく、各種排気口と6m以上離れて設置	4.0	0.33	3.0	-			
4.2.4 給気計画		-	-	-	-			
4.3 運用管理		4.5	0.20	-	-			
4.3.1 CO ₂ の監視	管理マニュアルを整備する	4.0	0.50	-	-			
4.3.2 喫煙の制御	専用の喫煙スペースを設置	5.0	0.50	-	-			
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-			3.9
1 機能性		4.0	0.40	-	-			4.0
1.1 機能性・使いやすさ		3.6	0.43	-	-			
1.1.1 広さ・収納性		3.0	0.33	3.0	-			
1.1.2 高度情報通信設備対応		3.0	0.33	3.0	-			
1.1.3 バリアフリー計画	建築物移動等円滑化誘導基準を満たしている	5.0	0.33	3.0	-			
1.2 心理性・快適性		4.6	0.32	-	-			
1.2.1 広さ感・景観	天井高:2.7m、執務室は全て窓に面している	4.0	0.33	3.0	-			
1.2.2 リフレッシュスペース	各階にリフレッシュコーナーを設置、館内に自動販売機を設置、機能、コンセプトを明確とし内装計画に反映、模型による検証済	5.0	0.33	3.0	-			
1.2.3 内装計画		5.0	0.33	-	-			
1.3 維持管理		4.0	0.25	-	-			
1.3.1 維持管理に配慮した設計	汚れにくい素材やディテールを採用した維持管理の容易な計画	4.0	0.50	-	-			
1.3.2 維持管理用機能の確保	メンテナンス用ハルコ-を設け維持管理作業が容易に行える計画	4.0	0.50	-	-			
2 耐用性・信頼性		4.3	0.31	-	-			4.3
2.1 耐震・免震		5.0	0.48	-	-			
2.1.1 耐震性	重要度係数1.5を採用している	5.0	0.80	-	-			
2.1.2 免震・制振性能	免震装置を導入している	5.0	0.20	-	-			
2.2 部品・部材の耐用年数		3.2	0.33	-	-			
2.2.1 躯体材料の耐用年数	品確法の鉄骨が等級2相当	4.0	0.23	-	-			
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.23	-	-			
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.09	-	-			
2.2.4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.08	-	-			
2.2.5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.15	-	-			
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.23	-	-			

2.3 適切な更新			-	-	-	-	
2.4 信頼性			4.8	0.19	-	-	
1	空調・換気設備	二重のバックアップ機能	5.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備	給水・排水のバックアップ機能	5.0	0.20	-	-	
3	電気設備	非常発電設備、受電の二重化	5.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法	耐震クラスA	4.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備	通信引き込みの2ルート	5.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性			3.3	0.29	-	-	3.3
3.1 空間のゆとり			4.2	0.31	-	-	
1	階高のゆとり	4.15m	5.0	0.60	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ		3.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.31	3.0	-	
3.3 設備の更新性			3.0	0.38	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.17	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.17	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.11	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.11	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.22	-	-	
6	バックアップスペース		3.0	0.22	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.32	-	-	4.5
1 生物環境の保全と創出		既存樹木の保存と復元	4.0	0.30	-	-	4.0
2 まちなみ・景観への配慮		既存庁舎の特徴を継承する外観デザイン	5.0	0.40	-	-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮			4.5	0.30	-	-	4.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	既存庁舎の外壁を利用したモニュメントによる記憶の継承	5.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上	緑地やピロティの水平投影面積11%、緑地等面積率11.9%	4.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.7
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.7
1 建物の熱負荷抑制			3.0	0.25	-	-	3.0
2 自然エネルギー利用			4.0	0.21	-	-	4.0
2.1	自然エネルギーの直接利用	ナイトバージ換気システム 過半に採用	5.0	0.50	-	-	
2.2	自然エネルギーの変換利用	太陽光発電 部分的に採用	3.0	0.50	-	-	
3 設備システムの高効率化		ERR=17.8	4.0	0.32	-	-	4.0
4 効率的運用			4.0	0.21	-	-	4.0
4.1	モニタリング	エネルギー消費の内訳の把握が可能	4.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制	BEMSの導入	4.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.7
1 水資源保護			3.8	0.15	-	-	3.8
1.1	節水	節型器具の採用	4.0	0.40	-	-	
1.2	雨水利用・雑排水再利用		3.6	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無	植栽散水の雨水利用	4.0	0.67	-	-	
2	雑排水再利用システム導入の有無		3.0	0.33	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.6	0.63	-	-	3.6
2.1	材料使用量の削減		3.0	0.07	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.24	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	高炉セメント(コンクリート):マツスラブ、擁壁	4.0	0.20	-	-	
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	ビニール床材(エコマーク123) 断熱材(エコマーク123)	4.0	0.20	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		3.0	0.05	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	躯体と仕上材の簡易な分別	4.0	0.24	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.8	0.22	-	-	3.8
3.1	有害物質を含まない材料の使用	ほとんどの材料はF	5.0	0.32	-	-	
3.2	フロン・ハロンの回避		3.3	0.68	-	-	
1	消火剤	ハロン消火剤の使用なし	4.0	0.33	-	-	
2	断熱材		3.0	0.33	-	-	
3	冷媒		3.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.8
1 地球温暖化への配慮		積極的な省エネルギー対策	4.2	0.33	-	-	4.2
2 地域環境への配慮			3.6	0.33	-	-	3.6
2.1	大気汚染防止		3.0	0.25	-	-	
2.2	温熱環境悪化の改善	緑による日射の抑制	4.0	0.50	-	-	
2.3	地域インフラへの負荷抑制		3.7	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	駐車場の確保 交通調査による動線計画	5.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制	ゴミの分別の徹底	4.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.5	0.33	-	-	3.5
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、日照障害の抑制			4.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制	風環境シミュレーションによる確認	4.0	0.70	-	-	
2	日照障害の抑制	基準を上回る日影規制による確認	4.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.7	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	広告照明は行わない	4.0	0.70	-	-	
2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	